

## 第4回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者について

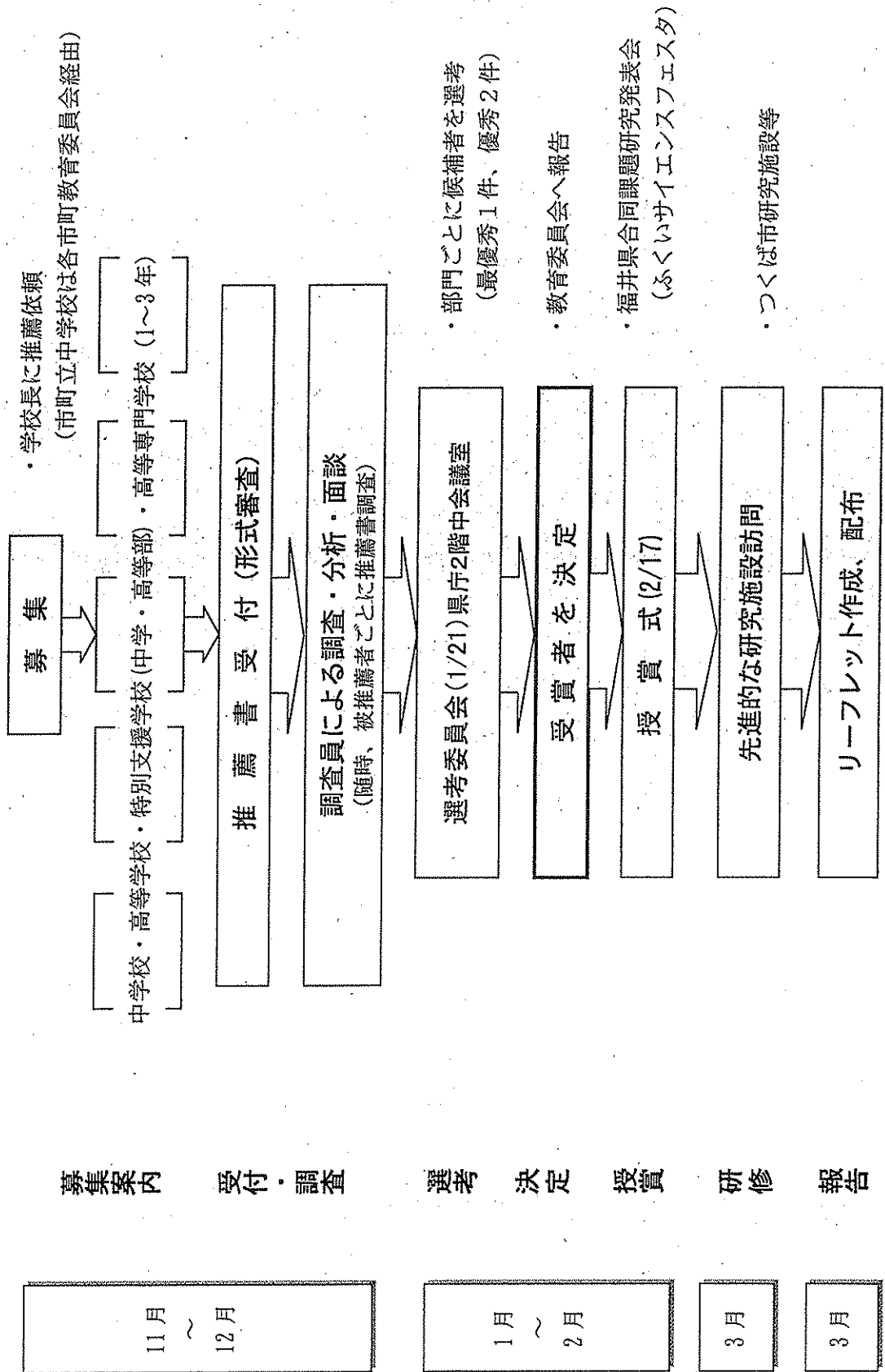
## 【中学生部門】

賞名	推薦種別	所属校氏名	学年	受賞理由	
				研究テーマ等	研究発表・コンテスト等での成績
最優秀賞	個人	福井大学教育地域科学部 附属中学校 坂本 佳純	2	「アントシアニンの展開 ～野菜の水栽培パート5～」 小学4年生から5年間、植物の水栽培について継続的な研究を行い、今年度は、これまでの研究から新たな課題を見つけて研究を進めた。実験器具や薬品は身近な物を代用し、何度も条件を変えて実験を繰り返し行い、自らが立てた仮説を検証している。	第56回日本学生科学賞福井県審査読売新聞社賞(H24)
優秀賞	個人	福井市社中学校 宮越 奨太	3	「古期花崗岩と新期花崗岩の違いを調べよう～花崗岩を徹底解析しよう Part2～」 花崗岩に関する継続研究である。岩石の作られた時代に着目して性質の差異を明らかにしたことは高く評価される。授業で学習していない原子構造や蛍光X線分析法についても自主的に調べ知識を得るなど、意欲的に研究に取り組み、成果をあげた。	第56回日本学生科学賞福井県審査福井県教育委員会賞(H24)
選考委員特別賞	個人	福井市社中学校 小濱 真宏	3	「バイオディーゼル燃料をつくるⅡ ～燃料の有効性を検証する～」 昨年度からの継続研究である。菜種油、石炭、灯油、軽油等を比較し、燃料の有効性やカーボンニュートラルについて、実験・考察を行っている。独自の実験方法で結果を導きだし、独創性や主体性が評価された。探究過程がストーリー化され、わかりやすい研究である。	第56回日本学生科学賞中央審査環境大臣賞(H24)

## 【高校生部門】

賞名	推薦種別	所属校氏名	学年	受賞理由	
				研究テーマ等	研究発表・コンテスト等での成績
最優秀賞	グループ	福井県立丸岡高等学校 伊東 大志 中川 貴稀	2	「音叉の2倍振動の研究」 音叉を鳴らした時に2倍音が発生するメカニズムを検証し、運動量保存の考え方で説明できることを結論づけた。またアルミニウム平板を曲げていくと基本振動の節が予想通り徐々に中央に近づいていくことを確認し基本振動発生の仕組みを検証できた。振動の様子をとらえるため複数の手法で繰り返しデータを測定した。地道に時間をかけて検証を進めている。	第56回日本学生科学賞福井県審査最優秀賞(H24)
優秀賞	グループ	福井県立藤島高等学校 竹内 亜衣 清水 咲良 箱田 小百合	2	「平成23・24年度ふくい理数グランプリ 高校部門 生物グランプリ 最優秀賞」他 平成23年度・24年度の2年連続で生物グランプリ最優秀賞を受賞した。当日出題された理論問題、実験問題に、優れた考察力や応用力を発揮している。またSSH学校設定科目「研究S」や「次世代科学者育成プログラム」等で主体的に課題研究に取り組んでいる。	平成23年度ふくい理数グランプリ 高校部門 生物グランプリ 最優秀賞 平成24年度ふくい理数グランプリ 高校部門 生物グランプリ 最優秀賞
優秀賞	グループ	福井県立武生東高等学校 和田 勇輝 濱野 隆三 廣田 雄地 分野 佳也 荒川 翼	1 ・ 2	「日野山二次林における遷移の研究3」 一昨年度からの継続研究である。戦時中、山全体の森林が伐採された日野山付近を調査し、極相林のシラカン林を発見した。自作の計測器を使いながら観測データを蓄積し、植物群落の遷移を詳細に考察している。	第55回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H23) 第56回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H24)

# 第4回南陽一郎記念ふくいサイエンス賞 手続き等の流れ



募集案内

受付・調査

選考

決定

授賞

研修

報告

11月 ~ 12月

1月 ~ 2月

3月

3月

# 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞要綱

## (目的)

第1条 この要綱は、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞（以下「賞」という。）の授賞に関し必要な事項を定める。

## (賞の区分および種類)

第2条 賞の区分および種類は、原則として次のとおりとする。

- (1) 中学生部門
  - ア 最優秀賞 1
  - イ 優秀賞 2
- (2) 高校生部門
  - ア 最優秀賞 1
  - イ 優秀賞 2

## (対象者)

第3条 授賞は、県内の中学校、高等学校、特別支援学校（中学部または高等部に限る。）または高等専門学校（1学年から3学年までに限る。）に在籍する者（当該在籍する者で構成するグループを含む。）であって、次の各号のいずれかに該当するものに対して行う。

- (1) 理科、数学およびこれらに関連した分野に係る研究発表またはコンテスト等で優秀な成績を収めたもの
- (2) 理科、数学およびこれらに関連した分野に係る調査、研究活動等を自主的または継続的に行い、その活動等に成果および努力が認められるもの

## (対象者の推薦)

第4条 県教育長は、県内の中学校、高等学校、特別支援学校および高等専門学校の学校長に対し、対象者の推薦を依頼する。ただし、県内の市町立中学校の学校長にあっては、各市町教育委員会を經由して依頼する。

## (選考、決定等)

第5条 受賞者の決定は、次に定める方法により行う。

- (1) 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞選考委員会（以下「委員会」という。）を組織し、委員会において前条の対象者の中から候補者を選考する。
- (2) 県教育委員会は、委員会が選考した候補者の中から受賞者を決定する。
- 2 委員会は、8人以内の選考委員で構成する。
- 3 選考委員は、学識経験者、学校関係者および教育行政関係者等のうちから、県教育委員会が委嘱し、または命ずる。
- 4 選考委員の任期は、委嘱または任命の日から当該委嘱または任命の日の属する年度末までとする。ただし、再任を妨げない。
- 5 委員会に委員長を置き、選考委員の互選によってこれを定める。
- 6 委員長は、委員会の会務を総理する。

## (授賞の方法)

第6条 受賞者には、賞状および副賞を贈呈する。

## (授賞の時期)

第7条 授賞候補者の選考は毎年行う。また、受賞者を決定した場合には、適切な時期に授賞を行う。

## (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成21年10月20日から施行する。

## 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞要領

南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞要綱（以下「要綱」という。）第8条の規定に基づき、次のように定める。

### 1 対象者の推薦（要綱第4条関係）

要綱第4条に規定する対象者の推薦は、次によるものとする。

- (1) 推薦は、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞推薦書（様式1）（以下「推薦書」という。）により行う。
- (2) 推薦書の記載事項に虚偽の事実があった場合は、選考の対象から除外する。
- (3) 推薦期間は、原則として毎年11月および12月の2か月間とする。

### 2 候補者の選考（要綱第5条関係）

要綱第5条第1項第1号に規定する候補者の選考は、次によるものとする。

- (1) 委員会の下に、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞調査員（以下「調査員」という。）を置く。  
調査員は、推薦書の調査や面談等を行い、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞調査報告書（様式2）（以下「報告書」という。）により委員会に報告する。
- (2) 委員会は、推薦書および報告書をもとに審議を行い、候補者の選考を行う。
- (3) 委員長は、(1)の調査結果を委員会に報告させるため、調査員を委員会に参加させることができる。
- (4) 委員会および調査員は、調査および選考に当たって必要と認める場合は、推薦者に対し、追加して資料の提出を求めることができる。
- (5) 委員会は、候補者の選考理由を添えて、県教育委員会に選考結果を報告する。

### 附 則

この要領は、平成21年10月20日から施行する。

## 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞候補者 選考基準

### (基本事項)

- 1 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞候補者（以下「候補者」という。）の選考は、授賞要綱および授賞要領に定めるもののほか、この選考基準の定めるところによる。

### (評価項目および要素)

- 2 選考委員は、授賞対象者について、次の評価項目および要素に着目して、評価を行うものとする。

- (1) 研究発表またはコンテスト等（以下「コンテスト等」という。）の成績については、次の要素に着目し評価を行う。

- ・趣 旨 知識のみでなく問題解決能力・課題探求能力等を評価するものであるか。（各種作業等の実技の習熟のみを競うものは不可）
- ・規 模 全国または福井県内に広く募集が行われているか。
- ・参加者数 認知度が高く、多くの生徒が参加しているか。
- ・成 績 受賞ランクが高く、選考の過程で高い評価を得ているか。

- (2) 調査・研究活動（コンテスト等での成果発表・レポート・解答等を含む）については次の要素に着目し評価を行う。

- ・計 画 性 動機が明確で、問題点をはっきりとらえ、計画的に調査、研究活動等が遂行されているか。
- ・論 理 性 観察、実験等から得られたデータをもとに、結論が論理的に導き出されているか。
- ・独 創 性 自ら考え、工夫を凝らした取組みとなっているか。
- ・主 体 性 自発的または自主的に、意欲を持って取り組んでいるか。
- ・発 展 性 研究成果をもとに新たな理論、仮説等をたて、今後の研究につながるものとなっているか。

### (評点)

- 3 選考委員は、授賞対象者について、前項の評価項目および要素に着目し、次の表により評点を付す。また、その他特記すべき事項があれば特記事項欄に記載する。

評点区分	内 容
5	特に優れている
4	優れている
3	普通
2	やや劣る
1	劣る

### (選考)

- 4 選考委員会は、前項による評点の合計点および特記事項を総合的に勘案し、合議の上で、授賞候補者を選考するものとする。

### (その他)

- 5 この選考基準に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

第4回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞選考委員会 委員名簿

	氏 名	役 職 等
1	伊 佐 公 男	仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授
2	伊 禮 三 之	福井大学 教育地域科学部 理数教育講座 教授
3	宇多川 隆	福井県立大学 生物資源学部 教授
4	加 藤 正 弘	福井県中学校教育研究会理科部会 部会長 (福井市藤島中学校長)
5	小 林 美 佐 子	福井県中学校教育研究会数学部会 部会長 (福井市清水中学校長)
6	関 素 夫	福井県高等学校教育研究会理科部会 部会長 (勝山高等学校長)
7	西 川 満	福井県高等学校教育研究会数学部会 部会長 (武生高等学校長)
8	小和田 和義	福井県教育庁 企画幹 (学校教育)